

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700172		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター下上津役	ユニット名 あたご	
所在地	福岡県北九州市八幡西区下上津役2丁目11番21号		
自己評価作成日	平成23年7月25日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月8日	評価結果確定日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境がよく、四季の移り変わりが地域の行事と密着しており、それに参加することがお客様の楽しみになっているので、希望者がかけられるようにスケジュールを組んだり、ご家族に参加していただいたりしています。お客様に寄り添い過ごす中で気づきを大切に、認知症の介護を行うように心がけています。お客様一人ひとりのペースを大切にしています。お食事を一緒に作ったり、レクリエーションをしたり、お掃除をしたり、日々の生活の中で出来るだけ現有能力を発揮でき、それを最大限に生かせるようにサポートをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った住宅地の中にあり、木々の緑や田畑が点在する周辺環境と、公共施設やスーパー等にも程近い利便性の高さを併せ持っている。昨年、新たな理念として「その人らしくいつまでも ありのままの姿で生活できるように 地域とともに高齢者を支えていくことが出来るグループホームを目指します。現有能力を最大限に発揮できるようにサポートします。」が作成され、職員は、認知症介護の経験豊かな管理者のもと、本人本位の暮らしの継続に向けた支援に日々取り組んでいる。生活リハビリを中心とする心身の機能維持に向けた働きかけを、本人、家族、職員で共有し、力を発揮する場面や尊厳のある暮らしへとつなげ、また、共に達成感を共有できるよう、認知症への理解も育んでいる。全国的に事業展開を図る法人としてのスケールメリットは、質の向上・確保に向け構築された様々なシステムや、コンプライアンスの徹底等、当事業所運営の様々な点において反映されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくいつまでも ありのままの姿で生活できるように地域とともに高齢者を支えていくことが出来るグループホームを目指します。現有能力を最大限に発揮できるようにサポートします」という理念を全員で共有・実践している。	昨年の評価以降、地域密着型サービスとしての視点を含む独自の理念が作成され、運営推進会議・家族会の中での発表が行われている。心身の機能維持に向けた働きかけを、本人、家族、職員で共有し、尊厳ある姿を大切に支援を行うこと、また、地域とともに認知症の啓発に取り組んでいくことを明確にし、その実践に向けて、日々様々な取り組みが行われている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をするときは、近隣の方はこちらから声をかけるように指導している。地域の盆踊り大会に参加。川で行われる神事の見学。町内会に加入し交流に努めている。	町内会に加入している。近隣の熊野神社の神事や盆踊り等の地域行事への参加や見学、近隣河川の清掃活動に参加している。近所の家庭菜園で収穫された野菜の差し入れを頂いたり、近所子ども達が不意に訪れ、紙芝居を披露してくれることもあり、日常の関係性を窺い知ることができる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する相談を受け付けている。ボランティアの受け入れを行っている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、参加者からの意見を実践に生かすようにしている。	毎月作成される「ほほえみ新聞」の中で、全家族への運営推進会議の開催案内を行い、積極的な参加を呼びかけており、多くの家族の参加が確認できる。活動報告や情報発信、災害対策について、収支報告等、様々な内容にて協議が行われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターにお客様の相談に行ったり、空室時の情報を伝えている。	地域包括支援センターとの連携が主体となり、運営推進会議への参加を得たり、困難事例等の相談を行っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	チェックリストを用い、身体拘束を予防する視点を持ち、また、生活リハビリを中心とする心身の機能維持への働きかけを支援していくことを、理念の中にも示し、実践に向けて取り組んでいる。家族へ弊害やリスクを説明し、共有認識を育みながら支援を行っている。管理者は、医師との連携を図り、薬による抑制や、排泄との関連性にも注視している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。報・連・相の徹底。	

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回セミナーへ参加しホームで落とし込みを行う。	管理者、職員は、社会福祉協議会の主催する研修へ毎年交代で参加し、内部での伝達を行っている。権利擁護に関する資料を整備し、家族への情報提供を行える体勢にある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉に置き換えて説明を十分に行うように心がけている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている。 苦情に関するフローを掲示している。	法人として家族アンケートを実施し、出された意見や要望については、運営推進会議の中で報告や検討が行われており、開かれた事業運営への取り組みがある。毎月、管理者、職員の手による通信の中で、運営推進会議・家族会、行事等への積極的な参加を募っており、多くの家族の参加を得て、意見や要望の収集の機会としても活用している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度全体会議を行い、職員の意見を聞いている。また個人的に相談しやすい環境にするようにも心がけている。	毎月、全職員の参加する全体会議の中で、意見や提案を求めながら、ケアや業務への反映につなげている。また、年2回、個人面談を行い、意見の収集や方向性についての確認を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事出来るように年に二回個別面談を行い、介護に対する考えのヒヤリングを行っている。会社としてもキャリアアップの制度があり活用するように努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人権の尊重に配慮している	ヘルパー2級以上の採用条件はあるが、年齢や性別を理由とする排除は行わないようにしている。キャリアアップ制度を導入し、技術やモチベーションの確保に向けて各種の評価を実施し、給与面への反映を行ったり、外部研修参加時は出勤扱いとなる等、法人としてのシステムが確立されている。持ち回りで勉強会の講師を務めたり、各種委員会での活動、時には得意な楽器演奏が披露されたりと、能力を發揮する場面も確保されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の尊厳と自立を念頭に置き、勉強会の開催を行ったりしている。職員に対しては自分の親を入所させたい施設、自分が入居したい施設、自分がしてもらいたい介護を提供するように日々伝えている。	内外の研修等を通じて、個人としての尊重や、尊厳やプライバシーを大切にされたケアについて、意識を高める取り組みを行っている。	

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時期からの経過を踏まえてテクニカル研修を対象者に行うようにしている。 外部の研修にも積極的に参加するようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡協議会に参加をしたり、勉強会に参加することで他事業所との交流を図れるように配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行うようにしている。コミュニケーションの取りづらいう方はセンター方式を使い生活歴を知ること、早くなじみの関係を作れるように配慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みをいただいた際や、契約を行うときに困っていることや要望を聞きだすように心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を用い、必要とする支援を見極めるようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なじみの関係を作ることで安心して生活していただけるように配慮している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いろいろな家族関係がある中でその関係を大切にいただくように面会時間の制限はしていない。仕事帰りでも立ち寄っていただいたりしている。お客様の居間を訪問の際にはお話し、情報を共有していただきともに支えられる関係を築けるように努力している		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人がいつ来ていただいても楽しく過ごせるように配慮している。人や場所だけでなくものも大切なものと考え入居の際に持参していただけるように声をかけている。	地域行事への参加や、これまでに読み続けてきた新聞の購読を継続できるよう支援している。家族や友人、知人の来訪とともに歓迎し、関係性の継続に向けた支援を行っている。センター方式も活用しながら、馴染みの関係性の把握に努めている。	

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重しながら生活してもらっている。お客様同士が関われるようにレクリエーションの際は会話を橋渡しして全員で楽しめるように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を確認させていただいたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで本人の意向をできるだけ明確化し実現できるように支援するようにしている。	入居時に、家族にも記入してもらいながら、センター方式を活用した情報収集を行っている。新たな気づきも随時追記され、職員間で共有しながら、思いや意向の把握へとつなげている。言葉の奥にある思いや潜在的ニーズの把握について、年間研修計画の中に位置付け、視点の確保に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でこれまでの生活歴を把握している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現有能力を最大限に発揮できるように、サポートをすることを心がけている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催し、現状の検討、モニタリングを通じて介護計画に生かせるように努めている。	各担当者を中心としてモニタリングが実施され、職員全員でのカンファレンスを開催し、計画の見直しにつなげている。心身の活性化へ向けて、日々の買い物等、暮らしの中での役割を発揮する場面を具体的に示し、個性あるものとなっている。状況に応じて、医師を交えた担当者会議も行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式に記入していくことで情報共有を行っている。		

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応をするためスタッフのシフトを変更して出勤人数を多くし、お出かけやそうめん流しなどサービスの拡充を図っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃に参加したりしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続してかけられるように支援している。	入居時に、これまでのかかりつけ医への受診や、協力医の往診体制について説明し、希望を確認している。管理者は、医師との連携や情報共有を図りながら、入居者本位の医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており1週間に1度健康チェックに来ていただいている。疑問や相談したいことは24時間連絡可能な体制となっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師や看護師と十分コミュニケーションをとり早期退院に向けて調整するように心がけている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族と話し合い、本人の状況も踏まえたくターミナルケアができるかどうかの検討を行っている。ターミナルの場合は医師から指導を受け情報共有しスタッフがケアを行う。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた方針について説明し、同意を得ている。本人、家族の意向については、センター方式も用いながら把握、共有に努めている。家族と医師との関係性の構築にも留意し、定期的に情報を共有する機会を設けたり、担当者会議にて同席する等の取り組みがある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に一度救急救命指導を受けている。定期的な勉強会で緊急時の対応について学ぶようにしている。		

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度防災訓練や自主避難訓練を行っている。地域の方々にも協力をお願いしている。	消防署立会いの防災訓練、及び事業所の自主訓練が、年に各2回ずつ実施されている。消防署が近隣に位置し、また消防団長の自宅も近く、非常時には心強い。運営推進会議や全体会議の中で、連携や課題についての話し合いが行われている。備蓄品も準備されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員が、スピーチロックの勉強会を行ったりポスターを作製したりして高齢者の尊厳を守るよう努力している。	排泄時の声かけや対応については特に留意し、尊厳やプライバシーへの配慮を心掛けている。また、テスト形式にて、個人情報保護に関する各職員へのチェックも行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最終的に自己決定できるような声かけを工夫し職員主体にならないように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望する生活リズムで過ごせるようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分らしくいられるように支援している。外出時のお化粧品や日頃の眉の手入れなども声をかけ手伝うようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけと一緒にできるように心がけている。時折出前をとったり、インターネットで旬の食材を購入したり、スイーツを買いに行ったりできるようにしている。	法人として作成されたメニューをもとに、嗜好や旬の食材を取り入れながら献立を作成している。時には、寿司、鰻、ピザ等の出前を活用する等、「食」を楽しむ機会も多い。徒歩にて食材の買い物に同行される方もおり、介護計画の中にも位置付けながら、役割として力を発揮する場面を支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックしている。自力でできないところをサポートしている。		

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせて、仕上げ磨きなどを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にセンター方式で排泄パターンの把握に努めている。時間ごとに誘導し不必要なオムツは使用していない。	入居時に、センター方式のシートを活用しながら排泄パターンの把握に努め、その後も、カンファレンス等にて確認、検討しながら、個別のニーズに応じた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く提供し、適度な運動ができるように努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決めておらず好きな時に入ることができるようにしている。	毎日入浴されている方もおり、また、午後8時まで対応することが出来る等、希望や生活習慣に応じた、柔軟な支援が行われている。入浴介助や入浴できない場合の工夫についての研修が、年間計画の中に位置付けられている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動性を揚げることで、心地よい睡眠が取れるようにしている。消灯時間等はなく自由である。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会を実施したりしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割を念頭に置き介護計画を作成。日課や役割を表にして掲示している。		

福岡県 ニチイのほほえみ下上津役

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば外出できるように取り組んでいる。また遠方を希望される場合はご家族と協力して出かけられないか検討をしている。	気候に応じて、夏場は早朝の涼しい時間帯、寒い時期には防寒対策を万全にしながら散歩に出掛ける等、その季節を五感で感じられるよう、外気にふれる機会を大切にしている。歩いて花屋に出掛け、玄関に活け花を飾ってくれる方、食材の買出しを役割とされている方等、介護計画の中にも位置付けながら支援を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お出かけをした時は本人が買い物を楽しめるように努めている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は随時できるようにしている。手紙のやり取りができる方は行っている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるように壁紙をみんなで大きくせいでいる。適度な明るさを保ち、昼間はみんなが集える場所となっている。	居間・食堂の一角には畳コーナーが設けられ、廊下のソファやウッドデッキ等、その時々に応じたくつろぎの場所がある。皆で作成された書道作品や、行事の際の写真等が掲示され、明るく、清潔感のある共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を提供できるよう廊下にも椅子を設置している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを入居時に持ってきていただくようお願いしている。本人が安心して生活できるように環境整備を心がけている。	各居室は、趣味道具や作品が置かれていたり、好きな芸能人の写真が貼られていたり、個性あるプライバシー空間となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用いできることできないことを把握した上で安全に生活できるように配慮している。		